

科目名	保育実習 I (保育所)				担当	関 裕子・千葉 直紀・堤 裕美			
形態	実習	単位数	2	開講時期	1年後期・ 2年前期	実務経験	保育士経験有 (関・千葉)		
必修	保育士：必修 レク：選択必修				ナンバリング	Y5102	DPとの 関連	免1・免2	
授業概要	本科目は、実習園（保育所）での実習科目である。実習を行うためには、「保育実習 I（保育所）事前指導」に 14 回出席し、幼児教育学科の実習許可会議によって実習を許可されることが必要である。								
到達目標 学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に理解する 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ 								
授業計画	<p>保育所の役割と機能の理解①保育所の生活と一日の流れを知る " ②保育所保育指針の理解と保育の展開を知る 観察を通じた子ども理解①子どもの観察とその記録によって子どもを理解する " ②子どもの発達過程を理解する " ③子どもへの援助やかかわりを実践する 保育内容・保育環境の理解①保育の計画に基づく保育内容を実施する " ②子どもの発達過程に応じた保育内容を理解する " ③子どもの生活やあそびと保育環境の関連を理解する " ④子どもの健康と安全を守る方法を理解する 保育の計画・観察・記録①保育課程と指導計画の理解と活用について学ぶ " ②記録に基づく省察・自己評価について理解する 専門職としての保育士の役割と職業倫理①保育士の業務内容を理解する " ②職員間の役割分担や連携について理解する " ③保育士の役割と職業倫理について理解する まとめ</p>								
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解が深まったか 2. 保育所の機能への理解が深まったか 3. 保育士としての基礎的な資質・能力・技術を習得することができたか <p>以上の観点から実習園の園長が評価するとともに、実習日誌の内容及び手続き等から、保育技術及び職業倫理の修得の程度を実習委員会が評価する</p>								
評価方法	その他 100% (実習園による評価 60%・実習委員会による評価 40%の割合で点数化し総合的に評価する)								
フィードバック 方法	実習事後指導における事例検討とそれに対する講評								
アクティブ ラーニング	グループワーク								
教科書	『保育所保育指針』、『実習ガイドブック』 上田女子短期大学								
参考書	『教育・保育実習のデザイン』 萌文書林								
履修条件	「保育実習 I（保育所）事前事後指導」15回(事前指導14回、事後指導1回)を受けることが実習履修の要件である。 また、本学幼児教育学科において定める実習実施基準を履修の条件とする。								
授業外学習	事前学習：「保育実習 I(保育所)」の関連ガイダンスにもれなく出席すること (各 30 分) 事後学習：保育士資格取得に必要な手続きを済ませること (各回 1 時間)								
オフィスアワー	実習指導室にて随時対応								